

WCRP

Religions for Peace

会報 2025年夏号

Vol.547



Contents

こころの扉——
「対話と祈りの精神を次世代へ」 細野舜海 2

特集：1 国際的“サバイバル目標”達成に向けた
世界の宗教ネットワークの強化

第3回 東京平和円卓会議を開催 3
ミャンマー地震支援 4

第3期 平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー 5

平和研究所 研究会報告 6～7

目で見る WCRP 7

第52回理事会・第30回評議員会 8



公式サイト



こころの扉 The Path to Peace

天台宗宗務総長

細野 舜海

対話と祈りの精神を次世代へ

昨年11月17日付けで宗務総長に就任して以来、自坊がある千葉県と滋賀県大津市の天台宗務庁までの移動に利用する駅や交通機関で、多くの外国人観光客に出会います。法衣を着ている姿が珍しいのか、時には声を掛けられることも。会話が生まれる中で、私はいつも「どちらから来られましたか」と問いかけます。すると出身地に続き、多くの方が嬉しそうに日本での体験を話してくれます。私が宗教者であることが判ると、自身の信仰を伝えてくれることもありました。日本の素晴らしさに感動してもらえたことは誇らしく、また国際交流の一端を担えたことに幸せを感じます。ささやかな交流ではありますが、つたない言葉での会話でも気持ちが通じ合うと信頼関係が芽生えることを実感できます。

今、私たちが生きる世界には覇権的な国威行動による争いが目立ちます。対立や暴力がない状況だけが平和とは言えません。貧困、人権問題、気候変動など諸課題が横たわっています。これらを解決するには、共通する価値観や目標を持つ人びとで構成される共同体が必要だと常々考えてきました。そこでは、同じ信念や理想を持つ仲間を増やし、対立には胸襟を開いた対話を通じて互いを認め合い、信頼関係を構築する作業が求められます。

その一つとして日本では、1987年に日本宗教代表者会議が主催者となり『比叡山宗教サミットー世界宗教者平和の祈りの集いー』が開催されました。以来、志を同じくする世界の諸宗教代表者らが世界平和への祈りを捧げ、恒久平和実現のための使命と責務を語りあってきたのです。山田恵諦天台座主猊下は「世界中の人びとが祈れば、必ず平和になります」と呼びかけられました。宗教や信仰の垣根を越え、固く握手を交わされる宗教者の姿は青年僧であった、私の心を強く揺さぶりました。

2年後には「平和の祈りの集い」は40周年の節目を迎えます。初回に採択し世界へ向けて発表された『比叡山メッセージ』には「宗教者は、常に弱者の側に立つことを心がけねばならない」とあります。この一節を改めて噛みしめ、比叡山宗教サミットの精神と先人から継承されてきた「対話」と「祈り」による世界平和実現への願いを次世代に繋げるよう尽力してまいります。そして、この日本宗教界の取り組みを国内外の人びとに伝えていきたいと存じます。



1 国際的“サバイバル目標”達成に向けた世界の宗教ネットワークの強化



第3回 東京平和円卓会議を開催

7月1日～3日都内で、第3回東京平和円卓会議が開催され、12カ国から約120名が出席した。この円卓会議はWCRP/RfP日本委員会が、同国際委員会とともに、紛争地域の宗教指導者を東京に招き、対話による信頼構築を図り、和解への糸口を探るものである。ロシアによるウクライナ侵攻を受け2022年9月に第1回、2024年2月に第2回の円卓会議を開催、第3回目となる今回はウクライナ、ロシア、ミャンマーの宗教指導者が集った。当初はイスラエル、パレスチナの宗教指導者も出席予定であったが、勃発したイスラエルとイランの戦争の影響で、直前に出席の取り止めが決まった。

この円卓会議では、全体討議や問題ごとの分科会、国会議員との会合、座禅体験などを行い、宗教者同士の相互理解を深め、紛争和解に向けた対話を重ねた。そして最終日に、今後の共通行動を盛り込んだ声明文を採択した。

声明文ではまず、宗教指導者が、平和と幸福を分かち合うために先駆けて行動することや平和は

可能であるという信念を持つことの意義を表明した。そしてすべての生命が尊いこと、赦しが極めて重要であること、平和構築において女性の参画が不可欠であること、そして平和構築は利益追求に利用されてはならないことを謳った。その上で、普遍的な軍縮や人道支援の経路の保護、国際法の尊重、他者を受け入れること、礼拝所の保護を広く国際社会に呼びかけた。さらに、東京平和円卓会議は宗教者自身の共通行動も誓った。ロシアとウクライナを含むすべての紛争地域の即時かつ無制限の停止を呼びかけていくこと、諸宗教による青年の平和交流を開催すること、人道支援を強化し、困窮する人々への避難所を設置すること、今回実現できなかったイスラエルとパレスチナの指導者の招集などを決意した。そして最後に声明文は、赦しと各界との対話の重要性を再度確認し、祈りと行動の団結を呼びかけ、締めくくられた。



アジェンダ2030 HP

東京平和プロセス

第3回東京平和円卓会議では、新たに宗教指導者による中期的な行動を実施していくこととなった。円卓会議では、これを東京平和プロセスと定め、今後5年間を想定し紛争地域の和解に取り組む。このプロセスは、紛争の停止と紛争後の和解と癒しの局面において、主に円卓会議による宗教指導者の信頼構築を柱とし、青年交流、女性宗教者による和解イニシアチブ、政治指導者との対話、人道支援の実施を、長期的

視野を持ちながら粘り強く推し進めていくものである。

会議を主導したWCRP/RfP国際共同会長のエマニュエル府主教は、紛争地域の宗教者が一堂に集い対話を重ねられたことの成果を強調、「この円卓会議が、さらに長期的な視野を持って対話を継続することを決めたことは、極めて意義深い」と述べ、今後も東京平和プロセスとして、WCRP/RfPは紛争和解に果敢に取り組み続けることの決意を表明した。



1 国際的“サバイバル目標”達成に向けた世界の宗教ネットワークの強化



ミャンマー地震支援

WCRPは創設以来、世界に宗教者のネットワークを構築し、困難に直面する人々の苦に寄り添いつつ、平和実現を目指して行動している。2021年2月1日のクーデターによる混迷と分断が深まる中、ミャンマーを襲った地震への対応について、WCRP ミャンマー委員会からの現地レポートをもとに報告する。

信仰を超えて支え合う

地震被災地で進む宗教間協力と癒しの取り組み

2025年3月28日、ミャンマーを襲った壊滅的な地震は、3,800人の命を奪い、5,100人以上が負傷、11万人超が支援を必要とする状況を生み出した。マンダレー、ザガイン、アマラプラを中心に、多くの人々が家を失い、今なおサッカー場などに建てられた仮設シェルターで不安定な生活を強いられている。

国連や国際NGOによる支援が続く一方で、宗教間の協力を基盤とした初期対応と心のケアが、現地で静かに力を発揮し始めている。とりわけ注目すべきは、WCRP/RfPを通じた現金給付支援だ。地震発生から45日以内に、マンダレー・サガイン地域の210世帯に

対し、優先度の高い世帯を対象に30万MMK（約2万円）の現金を配布。生活必需品の調達だけでなく、被災地の瓦礫除去や衛生環境の改善に活用された。

5月末には現地で支援活動に対する評価のためのワークショップが開かれ、宗教指導者や若者、女性たちが参加。「信仰を超えて支え合う経験は心強かった」「初めて心のケアを受け、自分を大切に思えるようになった」との声が寄せられた。ヒンドゥー教の少女たちからは、「少数派としてこのような支援を受けたのは初めて」という感謝の言葉も聞かれた。

一方、宗教施設の被害も深刻だ。5,000を超える仏教寺院・教会・モスクが損壊・倒壊したが、再建支援を受けられたのはごく一部。SAC（国家行政評議会）は宗教団体に自助努力を求める一方で、少数派宗教の再建には消極的な姿勢を見せている。宗教指導者は「信者もまた被災者。支え合いには限界がある」と訴える。

今、ミャンマーで求められているのは、物資や資金に加え、心の痛みに寄り添う伴走者の存在だ。宗教を超えた連携が、人々の再生の力となっている。

WCRP 日本委員会の支援

WCRP 日本委員会ではミャンマー地震に対し支援金勧募を行い、6月13日現在、17,986,186円の支援金をお寄せいただいた。初動として、4月にWCRP ミャンマー委員会に対して1万ドルの支援を行なうとともに、現在までに以下の団体への支援を行なった。

- (1) ACRP を通じた WCRP ミャンマー委員会への支援 (300万円)
- (2) 一般社団法人日本ミャンマー友好協会 (100万円)
- (3) Burma Platform (100万円)
- (4) INEB / International Network of Engaged Buddhists (50万円)
- (5) 特定非営利活動法人 Japan Peace Charity (50万円)

和解の教育タスクフォース主催



第3期 平和と和解のための ファシリテーター養成セミナー 実施



平良愛香氏



高齢者キットで疑似体験



柴谷宗叔氏

4月26日～27日、連続セミナーである第3期『平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー』の第3回目が、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された。今回は「他者に気づき、受け止める」をテーマに、他者に気づき、その受け止め方を学ぶことを通して、和解のスキルを身につけることを目的に実施され25人が参加した。

セッション2「共に生きる社会 一隣に気づくー」では、キリスト教牧師の平良愛香氏と、性善寺住職の柴谷宗叔氏が登壇。これまでの人生を振り返り、自身のセクシャリティに関する体験や、キリスト教、仏教の立場から見たセクシャリティに関する知見と、その取り組みについて語った。

平良氏はセクシャリティに関する問題は単純ではなく、避けたがる問題になっているからこそ、宗教者が性の問題にしっかりと向き合っていかなければならないと指摘。さらに、周りにいる身近な友人、知人の中にはアウトティングを恐れて自身のセクシャリティについて話せない人がいる可能性があることに触れ、セクシャリティの問題のみならず、「共に生きている社会の中では、自分の知らない内に備わっている社会的な有利性、差別

性があり、自分自身が抑圧者側にいる可能性にも気づいていかなければならない」と語った。

続いて登壇した柴谷氏は、阪神・淡路大震災で被災したことをきっかけに勤めていた会社を辞めて高野山にて得度した。その後、僧侶の戸籍とも言える僧籍簿も性別変更し、セクシャリティに関する悩みを相談できる場所を作るために性善寺を建立した。性善寺が「性的マイノリティの方々だけが訪れるお寺ではなく、お参りに来られる方々やお遍路さん等、さまざまな方々に門戸を開いている。多様性を認める場を作り、共にこれから社会に広めていこう」と参加者に投げかけた。

翌27日行われたセッション4「和解と調停／実演」では松井ケティ氏が講師を務め、メディエーション（仲介）に必要な姿勢や、当事者同士の感情をつかむ重要性、そして相手を尊重するには他者を知り、他者の苦難を自分のことのように感じる必要があることを確認した。その後、参加者は、高齢者体験キットを用いて高齢者疑似体験を行った。参加者からは「高齢者の立場を体感でき、他者に気づくよい機会だった」などの感想が寄せられた。

平和研究所 研究会報告

2024年度 第8回研究会

日 程：2025年3月27日

発表者：西原廉太副所長（立教大学総長）

テーマ

視覚障がい者の尊厳の回復とキリスト教 ～岐阜訓盲院の歴史を中心に～



ヨハネによる福音書9章では、生まれつき盲目の人をイエスが癒し、当時の「罪の結果」という偏見を否定したとの教えが遺されている。キリスト教で語られるイエスがなした奇跡とは、単なる治癒ではなく、差別や痛みの中にある人々が「私はここに存在しているのだ (ego eimi)」との気づきにより、自己の尊厳を取り戻すものであった。旧約聖書では神は苦しむ人々のもとに下降し、共に痛む存在として示される。モーセの召命やイエスの茨の冠は、神が痛みを分かち合い、救い出す神であることを表している。

岐阜盲人伝道は明治中期、英国の宣教師チャペル師と森巻耳（もりけんじ）師の働きで始まり、1891年に岐阜聖公会訓盲院が設立された。後に県立岐阜盲学校や日本でも数少ない点字翻訳・点自英訳を行っている社会福祉法人岐阜アソシアへとつながる。特に1891年の濃尾大震災では、被災し困窮する視覚障がい者の支援が行われた。カナダ聖公会には、ある日本人少女への支援記録が克明に残されていた。公式な歴史には出てこない一人一人の物語が大切にされ、今に伝わっている。それはキリストがなした奇跡に通じるものといえるのではないだろうか。



2024年度 第9回研究会

日 程：2025年3月28日

発表者：松井ケティ所員（清泉女子大学教授）

テーマ

ヒンドゥー教カルマ・ヨーガと世界平和への旅



松井所員は、ヒンドゥー教の「4種類のヨーガ」の一つであるカルマ・ヨーガについて、平和教育者としての視点から学びを深めた経験を語った。スワミ・ヴィヴェーカーナンダ師の「カルマとはサンスクリット語の Kri（行う）に由来し、すべての行為はカルマである」という言葉を紹介し、カルマ・ヨーガが無私の奉仕を通じて行動する道であると述べた。また、師の「すべての出来事は魂を目覚めさせるために心の力を引き出すもの」という考えは、個人の内にある知性を引き出すことにある教育の本質と重ねた。さらに、「他者の義務を他者の視点から理解し、異文化を自分の基準で判断してはならない」という教えは、異文化理解を通じた平和創造に欠かせない姿勢であると受け止めた。

これらの教えは、自身の平和教育への志と深く共鳴し、自らが平和教育者として生を受けたという確信に至る契機となった。松井所員は、この学びを世界の平和教育者たちと分かち合い、共に平和構築に尽力したいと述べ、「私の世界平和への旅は続く」と締めくくった。

平和研究所 研究会報告

2025年度 第1回研究会

日程：2025年5月27日

発表者：山本俊正氏（元関西学院大学教授）

テーマ キリスト教からみた平和



山本氏は、「平和」の概念について旧約聖書の「シャローム」は単なる戦争の不在ではなく社会正義を含むものであり、新約聖書の「エイレーネー」ではイエスが報復を否定し「敵を愛せ」と説いたと述べた。初期のキリスト教会は絶対平和主義を取り、兵役も拒否していたが、4世紀にアウグスティヌスが「防衛のための戦争は正当」とする正戦論を提唱し、中世に継承された。16世紀には再洗礼派から再び絶対平和主義が現れ、20世紀には良心的兵役拒否や軍事費拒否運動が起こる。

第2次世界大戦後、教会の戦争容認への反省から世界教会協議会（WCC）が創設され、「戦争は神の意思に反する」と宣言された。山本氏は、旧約聖書の預言者イザヤの平和のビジョンと日本国憲法9条の理念を重ね、「命の尊厳」に基づく「平和の神学」の再構築が今こそ必要だと述べた。



目で見る

WCRP

EVENT
01



WCRP いのちの森プロジェクト

4月12日に、埼玉県所沢市のいのちの森において、春恒例のたけのこ掘り「タケノコ掘り de 森づくり」を開催し、子どもたちを含め47人が参加した。今年はタケノコが不作の“裏年”と心配されたが、大きなタケノコが次々と顔を出し、参加者は自然とのふれあいを楽しみながら、森の恵みに感謝する一日となった。

EVENT
02



青年部会

4月20日、弓矢八幡本部（和歌山県西牟婁郡白浜町）にて『第39回弓矢八幡・愛の会和歌山チャリティーバザー』が開催された。林大道幹事が主催団体の会長就任にあたり、青年部会は応援として以下の取り組みを実施した。

- ①青年部会幹事らによる色紙への一筆書き
- ②新島公彰幹事、村上泰教幹事、八坂親准幹事による壇上でのスピーチ
- ③感じる地球儀ワークショップ

EVENT
03



アジア宗教者平和会議（ACRP）

4月28～30日に、シンガポールにおいて執行委員会が開催され、第10回ACRP大会は、以下の通り開催することが決定された。

開催国：シンガポール

テーマ：【大胆で革新的な行動によって平和なアジアを築く】

日程案：2026年11月23日（月）青年・女性会議

24日（火）本大会

25日（水）本大会、50周年記念式典

26日（木）本大会

第52回理事会・第30回評議員会を開催

6月9日に大本本部みろく会館（京都府亀岡市／オンライン併用）で第52回理事会を開催し、理事17人と監事が出席した。6月26日には京都新阪急ホテル（京都府京都市／オンライン併用）で第30回評議員会を開催し、評議員9人と監事、理事長が参加した。「日本委員会人事」「2024年度事業報告」「2024年度決算報告」「第3回東京平和円卓会議」「WCRP 運営の改善に向けて」について審議し、全て可決された。



日本委員会人事で選任された役員は次の通り。（敬称略）。

名誉顧問 （理事会で推戴、評議員会で承認）	退任	大樹孝啓（前天台座主）
	就任	藤光賢（天台座主）
評議員 （任期：4年、6月2日の評議員選定委員会で選任）	重任	九條道成（明治神宮宮司） 吉高叶（日本キリスト教協議会議長）
	退任	牛尾淳（神社本庁前教化広報部長） 宮西修二（日枝神社宮司）
理事 （任期：2年、6月26日の評議員会で選任）	就任	香取大信（神社本庁教化広報部長） 清水祥彦（神田神社宮司）
	重任	来馬宗憲（曹洞宗宗議会議員・江岸寺住職） 久田哲也（神宮司廳総務部長）
	退任	森伸生（拓殖大学イスラーム研究所所長・日本ムスリム協会理事）
平和研究所所員（任期：2年、理事会で選任）	就任	四戸潤弥（同志社大学名誉教授）
女性部会委員（任期：2年、理事会で選任）	退任	藤田民子（一燈園）
青年部会幹事（任期：2年、理事会で選任）	事務局長	就任 谷野創流（一燈園）
	幹事	就任 南條了瑛（築地本願寺、浄土真宗本願寺派宗務員） 文世鈴（フォコラーレ運動）

賛助会員となって 活動をお支え下さい

WCRP 日本委員会の活動は寄附によって支えられています。寄附を通じて私たちの活動をサポートしていただければ幸いです。（寄附金には税務上の優遇措置があります）

■ 賛助会員の特典 ■

- ・会報誌（年4回発行）が届きます。
- ・主催の学習会／ツアーのご案内が届きます。
- ・活動にボランティア等として優先的に参加することができます。
- ・賛助会員の会費は寄附金控除の対象となります。

■ 会費 ■

個人会員：1口 10,000円／年 団体会員：1口 100,000円／年



読者の声 | 募集



秋号より「読者の声」コーナーを新設いたします。記事の感想、平和への思いなど、皆さまの声をお寄せください。150字程度、お名前の掲載可否などを明記いただき、会報担当者宛てに郵送、FAX、メールにてお送りください。ぜひ、お待ちしております。

WCRP 2025年 夏号

令和7年7月20日発行（季刊発行）第547号

発行人：戸松義晴

発行所：公益財団法人 世界宗教者平和会議日本委員会

〒166-8531 東京都杉並区和田2-7-1（普門メディアセンター内）

TEL：(03) 3384-2337 FAX：(03) 3383-7993

HP：www.wcrp.or.jp E-mail：rfpj-info@wcrp.or.jp

